



組合員・社員と家族の生活を守り、モチベーション維持・向上を求める

申7号

2022年度年末手当等に関する緊急再申し入れ

団体交渉を行う！（その1）



過去最高の働き度の中、黒字転換の努力をしてきた！
物価上昇に賃金が追いついていない！
モチベーションあがらない！納得できる回答ではない！

低額回答に対する抗議の声明等

112 機関 が発出！

11月11日に回答を示されて以降、5日間で

2000 件 に及ぶ組合員・社員の声！

会社の回答

申7号を頂きましたが、11月11日の回答が

会社として最大限の最終回答

交渉の最後に行った組合の主な主張

- ・これまでの交渉でも「心身ともに会社離れする」「今の経営姿勢では本音は把握できない」と述べてきた。
- ・JR東労組の団体交渉の場は、会社では把握出来ない声を把握出来る場だと認識して、最重要視すべきだ。
- ・会社の都合の良いことしか言ってはいけない職場、そのようになっているのではないか。会社発足以来最大の組織改革の中で、その先の職場の姿となってしまうのではと、強い危機感を持たざるを得ない。
- ・企業の発展には、ゴールがないとあった。ゴールはないが、1つひとつの節目はある。その1つの節目が黒字化だったのではないのか。会社はそこを目指して、奮闘を促していたのではないか。ゴールがないと言い続ける。それが今の姿勢だと言わざるを得ない。
- ・会社の持続的成長は成し得ないことについても議論し、会社の持続的発展のためには、組合員・社員の力、モチベーションの維持・向上が前提となると確認した。また、「過去最高の働き度に賃金が追いついていない」「物価上昇に賃金が追いついていない」「モチベーション維持・向上の課題」についても一貫して主張し、受け止めるという回答を受け、確認した。
- ・申7号交渉に込められた組合員・社員、その家族を含めた現実と本音の声を重く受け止めるべきである。申6号回答に対し到底納得出来ず、大いに不満であることから、これまでの議論を踏まえ、申6号の回答を撤回し、申7号の要求通りの再考を強く求める。

会社の主な回答

- ・限られた時間だが、このような状況で、夏より増えたのはありがたいとの声を直接いただいた。当然ネガティブな声もある。貴側からは、今回特に多いということについても受け止める。
- ・社員の皆さんが施策に向き合って努力したこと、その結果黒字を確保したこと、国際情勢による物価上昇、仕事をしてきた中で賃金が追いついていないこと、生活実感と労働実感の議論もしてきた。結果としてモチベーションが高まっていないことも議論した。この間議論してきた認識について大きくずれることはない。
- ・離職の問題についても我々も危機感を持っていて、取り組みを引き続き行っていく。
- ・なんとか黒字を確保した。営業収益や営業利益が業績予想を下回り、黒字化に向けての状況は厳しい。
- ・11月11日に示した回答書が最終回答である。

過去最高の働き・物価上昇に賃金が追いついていない、モチベーションの維持・向上の課題は、期末手当交渉の課題であるとともに、春の賃上げにおける現時点で極めて重要な課題だ！